

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600155		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム自由の杜		
所在地	山口県防府市大字大崎801-1		
自己評価作成日	令和2年5月22日	評価結果市町受理日	令和2年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
聞き取り調査実施日	令和2年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である『喜怒哀楽』を基本に利用者一人ひとりの思いや個性を尊重し毎日が楽しく利用者と職員がお互いに笑顔で過ごせるように日々努力しています。さまざまな場面の中で役割があり、時には利用者の方同士が気軽に声をかけあい、また助け合いながら出来る力で役割のある共同生活を送られています。今を大切にし、日本の季節ごとの行事や外出行事を多く取り入れるように努めています。楽しみごとに溢れているホームを目指し、時にはご家族の方々と一緒に過ごしていただける機会を持てるように取り組んでいます。利用者の方、そしてご家族の方、職員がしっかりと手を繋ぎながら、ひとつの輪となり、心温まるもうひとつの『我が家』と感じていただける家作りを目指し、日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入され、年末には、地域の人としめ縄づくりを一緒にしておられます。地元の小学校での認知症見守り隊の訓練参加の後に、事業所がこども110番の役割を担うことになったり、年1回、地区の公民館の高齢者教室で認知症講座を行い、その縁で地域の高齢者と交流を深めておられるなど、利用者が地域とつながりながら、日々の生活が過ごせるよう支援に取り組んでおられます。利用前に農家として野菜づくりで生計を立てておられた利用者が、野菜のことを話されたこときっかけに、事業所の畑づくりにつなげられ、その利用者を中心に時期に応じた野菜づくりや収穫に取り組まれるなど、利用者の思いや意向の把握に努められ、その人らしい暮らしを続けることができる支援につなげておられます。事業所では、持病のある利用者の90歳の誕生日祝いを一泊旅行で実現できたらという遠くにいる家族の思いを、協力医療機関の協力を得られながら、利用者の体調を整えられ、叶える支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 喜怒哀楽の実践の継続を行い、毎日表情豊かな日々を送っていただけるように努めている。毎月のホーム内行事や外出を企画し利用者とともに職員も一緒に楽しみ、喜びを分かち合えるように支援を行っている。ホーム周辺の四季折々の自然を感じ散歩をしたりしながら毎日笑顔の絶えない生活を送られるように支援している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念「喜怒哀楽」を日常のケアの中やミーティング時に話し合い、申し送りノートで情報共有し、利用者ひとり一人が地域の中で豊かな日々が送れるよう、理念を活かして実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の方にも馴染みある施設として、関係を築けるように努めている。年1回認知症講座を、昨年同様に、地区の公民館の高齢者教室で行い、顔なじみになった地域の高齢者の方々と意見交換を行った。また様々なボランティアの方や施設見学者など多くの方の来訪があり、閉鎖的にとらわれがちな施設ではあるが、交流の機会も多くなっている。地域の小中学校の生徒たちの職場体験を受け、ホーム利用者の方々と交流を深めている。	自治会に加入し、年末にしめ縄づくりを地域の人と一緒にやっている。地元の小学校での認知症見守り隊の訓練参加の後、事業所がこども110番の役割を担って地域の一員として日常的に交流している。年1回、地区の公民館の高齢者教室で認知症講座を行い、地域の高齢者と交流している。ボランティア（ファミリーコンサート、フラダンス、動物愛護団体、防府市のボランティアセッションズ等）の来訪がある。月1回手芸ボランティアの来訪があり、季節に応じた作品づくりを行い交流を深めている。地元の小学校、中学校の職場体験を受け入れている。毎年、年末に地域から門松の差し入れがある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症高齢者の理解を得られるように年1回講座を継続している。運営推進会議では自治会長、民生委員の方も交えて、毎回報告を行っているが、地域の状況や、問題など意見交換をし、何かできることがあればお互いが協力出来る体制づくりに努めている。入居希望のご家族が来訪時には、ホームリビングにて状況等の聞き取りを行っている。施設内の雰囲気、また入居者の方々の生活に触れていただき、悩み事など伺いながら、ホームでの支援の方法などの質問のお答えしている。また今年度は防府市主催の見守り模擬訓練がホームの地域で実施され、ホーム職員も協力し、小学校の生徒に認知症の方への声掛けなどを分かりやすく伝え、理解してもらえるように努めた。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価については、意義を理解し、毎年見直しを行いながら、現状の向上及び改善できるように努めている。日々の実践を振り返りながら、自分たちの実践している内容を、見直し各項目に記入している。	管理者が職員全員に評価の意義について説明し、職員は日々の支援を振り返り記入し、管理者が話し合いながらまとめている。前回の評価結果をうけて、全職員が応急手当や初期対応を身につけるために、講習経験のない職員が主に講習会に参加している他、法人研修や外部研修に参加してスキルアップに取り組んでいるなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い毎回行事等の報告の他に、事故報告、ヒヤリハット報告の検証や、事業報告、事業計画など色々と報告を行い、意見交換を行っている。外部評価についてや日程及び内容、結果もその都度会議の場でご報告を行っている。	会議は年6回、拠点施設と合同で開催している。利用者の状況や事故報告、ヒヤリハット報告、行事報告、事業計画、外部評価結果等報告し意見交換を行っている。法人のリハビリテーションの実際について、作業療法士が講師になって紹介している。事業所での看取りについて、延命や尊厳死等について意見交換を行い、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの認知症に関する事業や取り組みなどには事業所として協力出来るよう取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議時の他、取り組みの相談等をして、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、月1回の認知症カフェへの協力など連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について法人研修、内部研修に学ぶ場があり、個々を見直す機会がある。また事業所のミーティングにて日々のケアの中で注意しなければならないことや気になる対応などについては意見を出し合いながら、スピーチロック等気づけるように取り組んでいる。定期的に自分のケアに関してのチェックシートを職員に配布し、自分を振り返り、理解を深める機会をもうけている。玄関の施錠等、グループホームとしてのケアのあり方を常に念頭において、事故対策を行う様に努めている。	職員は、拠点内研修や内部研修で学び、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。拠点施設と合同で身体拘束委員会を設け、月1回の委員会に各ユニットより1名の委員が参加している。参加メンバーに看護師、相談員、歯科衛生士、管理栄養士、作業療法士が入っている。定期的に自分を振り返り、ケアを見つめるためのチェックシートを職員に配布し、スピーチロック等にも気づけるように取り組んでいる。日中玄関の施錠はせず、外に出たい利用者には、職員が一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は法人研修、内部研修に学ぶ場があり、参加を行うようにしている。また各入居者の担当者が中心になり、意見を出し合いながら、その方にとって安心した生活を送られるように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での定期的合同研修や、法人の定期合同研修へ職員は参加をしている。また参加できなかった者に対してもミーティングの際に説明を行い、理解出来るようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、ご家族とホームにて内容等の説明を詳細に行いながら、疑問や不安を解消されご理解を得るように努めている。また長期にわたりホームでの生活を送っておられる方のご家族に対し、経済的不安や負担に対しても相談をしていただける関係性を持てるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	契約時には、相談や苦情に対しての受付体制 を作り第三者委員や受付窓口の担当者を 明示し、説明を行っている。意見や要望等は 職員間できちんと話し合いながら、運営内容 に盛りこんで行けるように努めている。個別で の対応方法等月1回の報告書に詳細に記入 し、現状を把握していただけるようにしてい る。意見などはしっかりと受け止め要望ばかり を聞き入れるのではなく、記録等用いながら 説明を行い、ご本人の意向等お伝えし、納得 されご理解いただけるように対応している。	契約時に、相談や苦情の受付体制、第三者 委員、処理手続きについて家族に説明をし ている。面会時、運営推進会議時、月1回の 事業所だより送付時、電話等で家族から意見 や要望を聞く機会を設けている。ケアに関す る要望や意見は介護記録や経過記録を用い て家族と話し合い、意見や要望等は職員間 で話し合い、日々のケアに活かしている。運 営に反映させるまでの要望や意見は出てい ない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、全職員に人事考課シートを配布し、 提出後施設長と個別面談を行い、意見を話 せる機会を設けている。また職員ひとりひと りに、委員会や外出行事やホーム内行事、昼 食の日の献立など役割が有り、運営に携わり ながらやりがいの持てる職場作りを心掛けて いる。職員が担当している利用者のケア方法 など、担当する職員が中心となり、思いや個 性が出せる機会を多く作るようにしている。意 見や提案を様式に記入し職員全員で回覧を 行い、改善及び工夫出来るように努めてい る。	年2回、全職員は人事考課シートを記入して 提出し、施設長と個別面談を行い意見を話す 機会がある。職員は委員会や事業所での役 割があり、運営に関わっている。職員全員で ミーティング時にミニ勉強会を開催し、担当 する職員を中心として、利用者の思いや個性 が出せる機会をデモンストレーションを交え多 く作り、意見交換を行っている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	施設長はホームに立ち寄り、各職員と気軽に 声を掛けられる時間を作り、話す機会を設け ている。意見や希望を聞いたり随時相談は受 けるなど、やりがいの持てる職場づくりに努め ている。週1回の統括会議において現状を報 告し、職場の問題点を報告し、具体的な改善 対策等法人幹部などと話し合いを行ってい る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	毎月1日法人会議が行われ、様々な内容の 研修を開催し、職員教育の場を設けている。 併設施設との合同研修も行い、各職員のス キルアップに努めている。また外部の研修へ は勤務の一環として多く参加させている。受 講後は復命報告を提出し、他の職員にも回 覧して情報共有を行っている。技術、対応法 等はその都度職員同士で意見を出し、検討 しながら身につけるようにしている。	外部研修は、職員に情報提を伝え、勤務の 一環として受講の機会を提供している。認知 症介護実践者研修に月を変えて3名参加し ている。受講後は復命報告を行い、資料を回 覧して、情報を共有している。法人研修は、 毎月実施しており、希望者が参加している。 拠点研修は、合同で毎月内容(緊急時の対 応、感染症・食中毒予防、口腔ケア、事故防 止、認知症、高齢者虐待・身体拘束2回、介 護技術ポジショニング、事故防止、看取り介 護、褥瘡予防等)を決めて、講師を、作業療法 士、歯科衛生士、看護師、施設長、相談員、 職員等が担当して、実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	外部研修やグループホーム協会の勉強会 等、勤務として参加、また市や県などの研修 会にも参加を推進している。法人内での研修 会があり、同法人内の職員同士が、意見交 換や交流を持ちながら、良き相談相手として 共に向上していけるように取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には今生活を送っておられ るところへ訪問したり、介護保険サービス利 用の場に訪問し、生活環境を把握し、ご家 族、関係者に現状を伺っている。、またご本 人やご家族からの要望等、細かくお聞きし、 入居前にスタッフ間で、情報共有を行えるよ うに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入所前にしっかり情報収集を行い、必ずご家 族にも思いやご要望を伺っている。職員は情 報をしっかり目を通し心身の情報シートを作 成、し早く安心して生活が送っていただけ るように勤めている。面会の時間を特に決め ておらず、夕食後でもご都合のいい時間にと お願いをし、どの時間帯でも来れることで、安 心していただけるようにと考え継続している。 ご家族へは、状況報告を密に行い、また希望 や要望などを伺いながら、安心出来るホー ムと思っていただけるように信頼関係の構築 に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報を、職員が共有し支援の内容を考え、対応できるように話し合いを行っている。その後サービス内容の変更が必要だと思われる時にはその都度ご家族には説明をし、今現在のご本人の状況を報告を行い、ご理解していただけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの共同生活の中で、ご本人の出来る力を把握し、様々な役割を持っていただけるように支援している。利用者と職員が一緒に楽しめる時間を共有できるように取り組みを行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、その都度ご家族にお伝えし、対応の変更も報告している。利用者様を支えていくために、今の現状を把握していただき、理解していただくことで、共に支えていく関係作りを構築できるように取り組みを行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に年賀状は、利用者様おひとりおひとりが、自筆で書いたり、印判やシールなどを貼り、個性あふれたお手紙を作成し出しているようにしている。、面会者にはゆつくりと、ご本人とくつろいでいただき、以前の思い出話が出来るように配慮している。また会話が弾まれるように、ホームでのご様子など、生活風景の写真を一緒に見られながら、職員も席を共にでき、お伝えできる時間を作れるように取り組みを行っている。	家族の面会や親戚の人、近所の人、趣味仲間等の来訪がある他、家族への自筆の年賀状、電話の取り次ぎなどをして、交流の支援している。利用前から続けていたコーラスの参加を継続できるよう支援している。今年度、事業所でコンサートを予定していたがコロナ自粛と重なって開催が保留になっている。家族の協力を得て一時帰宅や外出、外食を支援している。事業所での様子を写真で紹介し、面会時にくつろいで会話が弾むよう配慮している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにはそれぞれの方がくつろげる居場所があり、一緒に食事をしたり、洗濯物をたたんだり、野菜の皮をむいたり、貼り絵をしたり、ときと場面によって、色々な方と席を共にされ、関係を築かれるように配慮しながら、支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時には、アンケートをお渡しし、ホームに対しての意見をいただき、見直しを行う様に努めている。またご家族の方より、お便りをいただいたり、訪問された場合は、相談等以前と変わらない関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との関わりを大切にし、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。各入居者の担当者が中心となり意向に沿った1日の過ごし方、リズム表の作成及び見直しも随時行っている。	利用前の生活歴や暮らし方等の情報を得て、利用者との日々の関わりを大切にし、思いや言葉などを記録し職員で共有し支援を行っている。利用者担当の職員が中心となって、利用者の意向に沿った一日の過ごし方のリズム表を作成し支援している。入居前に農家として野菜を作って生計を立てていた利用者が野菜のことを語りそれをきっかけに、事業所の畑に出ることにつながり、その利用者を中心に時期に応じた菜園づくりから収穫まで取り組んでいるなど、利用者の思いや意向を把握して、その人らしい暮らしを続けることができるよう支援している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集を行い、日々の会話で、収集した内容などに関してなど、面会時にご家族、知人の方と会話に交じり、話を伺う時間を儲けるように努めている。また聞き取った情報を職員間で情報共有出来るように記録に残している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりに身体記録、経過記録があり、身体記録には食事(水分)摂取量やバイタルなど、身体の様子がわかるようにまとめてあり、ホームでの役割や1日をどのように過ごされたかや、個々のもてる力を記入でき、情報共有を行っている。1日の生活リズム表を基に1日何もされずに過ごされる事がないように日々支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に問題やケアの方法などを検討している。利用者の状況把握のためのシートなどを活用し、管理者(計画作成担当者)と担当者が話し合い、介護計画を作成している。また24時間シートを活用し、利用者様の現状に合う支援について話し合い、職員全員が理解し、ケアの統一が行えるように取り組んでいる。	利用者を担当している職員を中心に利用者の状態に応じて随時ケアカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にして、管理者(計画作成担当者)と担当者が話し合い、介護計画を作成している。月に1度、24時間シートを活用しミーティングを行い、3か月に1回モニタリングを実施し、期間に応じて見直している他、利用者の状態や要望に応じて、その都度の見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体記録、経過記録、申し送り予定表(24時間シート)、排泄表など利用者様の日々の状況を詳しく記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また、利用者様の日々の様子や変化を見ながら、既存のケアにとらわれず新しい取り組みを行えるように努めている。、ケアの方法の変更時などは、温故知新の書という書類を活用し、リアルタイムに実践をして経過を見るようにしている。書類は職員全員が回覧をし意思疎通が出来るように努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、職員同士の連携で優先順位を考えながら、支援を行っている。業務の改善案、ケアの改善案を、その都度スタッフが発案や提案し、確認の上、変更しその後の経過も見ながら取り組みを行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開所より毎月手芸ボランティアの方も継続してきていただけ、利用者の方と顔なじみの関係ができ、楽しみの一つにもなっている。お祭りの時など様々なボランティアの来訪もある。併設の特養の入居者の方々と一緒に参加し、地域の中で楽しみが増えるように支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のかかりつけ医が2週間に1度、訪問診療で直接利用者お一人おひとりを診察され、職員が立会い日々の状況を報告、相談を行い、指示または服薬の調整を行っている。必要時には紹介状で専門医の受診を行っている。訪問看護師の定期訪問も週1回あり、職員からの相談に対し、状況に応じた注意点や介助法などアドバイスをしてもらっている。必要な時にはかかりつけ医に報告を行っている。訪問看護記録に残し、職員全員で回覧をしている。夜間緊急時にはかかりつけ医また訪問看護へ連絡を行い、利用者様が適切な医療を受けられるような体制になっている。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療がある。受診時には職員が立ち会い、利用者の状況を伝えて往診記録に記入し、職員間で共有している。他科受診等も受診記録に記入し、共有している。必要に応じて家族に連絡している。訪問看護師の定期訪問が週1回あり、職員もアドバイスを受け、訪問看護記録で回覧し、職員間で共有している。夜間緊急時にはかかりつけ医や訪問看護師へ連絡を行い、利用者の適切な医療支援につなげている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回訪れ、職員からの報告、相談を受けている。記録物に目を通し、意見やアドバイスを職員に直接話したり、また記録に記入し残し、職員全員が共有出来るようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際にはホームでの生活の状況や身体状況など細かな情報提供を行っている。入院中も何度かご本人の面会を行い状況を把握できるように努めている。退院前には入院中の状況や、今後の注意点を担当医または看護師に情報提供をしてもらえようようお願いをし、ご本人が退院後に、以前のように安心でき、安新出来るホームでの生活に活かしていけるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合についてホームの指針をもとに説明を行っている。また状況にあわせ、その都度新たにご家族とは、今の状況で医療との連携を行いながら、どのような方針で進めていくのかなど話し合いを行っている。毎月状況は詳細にご報告をしながら、ご家族の方にもご協力頂けるように取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応の指針について」に基づいて家族に説明し「看取り介護に関する同意書」で意向確認をしている。重度化した場合は、早い段階から家族の思いを聞き、主治医や訪問看護師と医療機関や他施設への移設、看取りなどについて話し合い、方針を決めて共有し支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故発生時には、報告書に詳細に記入し、その日のうちに職員で話し合い対策または改善が必要ならすぐに行い、再発防止に努めている。また全員に回覧をし共有を行っている。家族にも報告を行い、対策についても説明させていただいている。ヒヤリハット報告書も事故を未然に防ぐために活用しなければいけないことなど定期的にミーティングで説明し話し合いを行っている。日中、夜間緊急時の対応についても定期的に見直し再確認をおこない、対応法を話し合っている。訪問看護師の訪問の際にも手当、また対応法などその都度指導を受けるように努めている。	事故やヒヤリハットが発生した場合は、その場にいた職員が書類作成して回覧し、全職員が共有している。定期的にミーティングで緊急時対応法マニュアルに沿って転倒、窒息、誤薬等について再検討し、ひとり一人の事故防止に努めている。訪問看護師から利用者の状態に合わせての緊急時の対応や、利用者の様態が急変した時の対応について、24時間オンコール体制で指導を受けているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との合同で年3回利用者様、職員参加で避難訓練を行っている。昼夜の火災想定や風水害の場合の避難訓練、避難経路の確認、通報訓練を行い、毎回見直し反省を行い次回の訓練に活かせるように取り組んでいる。運営推進会議の際に報告を行い意見を伺いながら協力体制を構築できるように努めている。	年3回、拠点施設合同で昼夜想定の火災時の避難訓練を利用者、職員が参加して、地域住民との合同訓練で行っている。その内1回は運営推進会議の時に行っている。風水害時の避難訓練、避難経路の確認、通報訓練を行い、その都度見直しを行い、次回訓練に活かしている。運営推進会議で話し合い、地域との協力体制を築いている。緊急連絡網に自治会長、民生委員が入っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者との関わりを大切にし、利用者の思いや言葉などを記録し、職員同士で共有できるように心がけている。言葉かけに関してもご本人が不快な思いをされないようにその時の環境や状況に合わせた対応を行うように努めている。各入居者の担当者が中心となり意向に沿った1日の過ごされ方のリズム表の作成及び見直しも随時行っている。	職員は、法人研修で学んで理解しており、常に自分の身に置き換えながら、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意するとともに、職員は、守秘義務について理解し遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日お茶や飲み物はお好きなものを選んでいただいたり、入浴も声かけをし、今日はどうかされるのかはお伺いをしている。余暇の過ごし方も何をされたいのかお声をかけ、希望に添えるように支援を行っている。職員は1日の中で何度か選択される機会をもうけ、お一人おひとりの思いを汲み取れるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、今日の予定をボードに記入し、希望があれば記入している。職員は、その日の状況に合わせてチームで取り組み希望に添えるように、支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際に、必要な生活用品または、衣類などはご本人の希望も伺い購入を行えるようにしている。活動着や寝巻きは、御自分で見て好みのものを選んで着ていただくように努めている。また、月に1回美容院の方に来ていただき、ご本人の希望に添えるようお願いをしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々は厨房より食事は提供となっているが、月に1. 2回は昼食の日として、ホームでお一人おひとりの日頃から伺った意見や、希望も入れながら、担当者が献立を立て、食事作りを行っている。野菜の皮むき、卵割りなど役割を持っていただき職員と一緒に昼食をつくり、一緒に食卓をを囲み楽しめるように企画を立案している。また昼食の日に限らず、季節のものを美味しく食べるために、畑を作る方、手入れを行う方、収穫される方、など役割を持っていただきながら、畑から採れる野菜を使って、おかずやデザート作りを行ない出来る事は利用者の方も一緒に行えるように支援している。	三食とも拠点施設の厨房からの配食を利用している。月に1～2回は「昼食の日」として、利用者の希望を聞いて、事業所の菜園で採れた野菜等を使って、事業所内で餃子やパエリアなどの食事づくりをしている。利用者は、野菜の皮むき、卵割りなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、一緒に食卓を囲み楽しく語らって食べている。誕生日会では職員の手づくりケーキを食べている。おやつづくり(フレンチトースト、たこ焼き、ホットケーキ等)、行事食(花見弁当、子供の日のランチ、敬老の祝膳、お節、雛祭り等)、夏には9mのソーメン流しを楽しんでいる。家族の協力と協力医と職員のチームプレイで90歳の誕生日お祝いの外食など、食事を楽しむことができる支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体記録には1日の食事摂取量や水分摂取量を記入し把握出来るようにしている。同敷地内の特養管理栄養士にも相談を行い体調や食事の状況の変化に合わせ、食事の形態や食事量の検討し、変更を行ない、経過を見るようにしている。水分量にも常に気を配りながら、随時お勧めをし補えるように努めている。また夜間にも、お聞きし水分をお出しするようにしている。またかかりつけ医の訪問診療の際に報告、相談も行い意見をいただくようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け誘導や見守り、入れ歯の洗浄や消毒等も行い、口腔内の清潔保持に努めている。定期的に同敷地内特養の歯科衛生士の訪問もあり、口腔内の痛みまた入れ歯の不具合等利用者の方より訴えがある場合は、協力医療機関の訪問歯科診療を受けるようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1日の排泄状況を一目でわかるような記録にし、個々の排泄パターンを踏まえながら、声掛け誘導で汚染を防げるように、支援を行っている。トイレでの排泄が行える事が、不安解消につながる事と考え、スタッフが会話からだけではなく、個々の表情や行動を理解できるように努めている。おむつに関しては自己負担ということ、スタッフ全員が理解しており、適切な使用方法を随時検討し、使用量削減の取り組みを行っている。	1日の排泄状況がわかるように工夫した記録表を基に、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に応じた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を確認し、水分はお茶ばかりではなく、便通の良くなるおやつや飲み物やなどを提供している。毎日体操は食前に行い、室内レクなど体を動かすことに参加していただけるよう毎日の日課として、取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前、午後、また時間や順番は特に決めておらず、安全に行えるように考えている。お声をかけ承諾いただき、毎日希望されても入浴していただけるように努めている。	入浴は毎日可能で、入浴時間は特に決めず、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせてゆつくりと入浴できるよう支援している。体調に応じて部分浴やシャワー浴、清拭などの対応をして個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室 リビングでの休息は、お一人おひとり自由に好きな場所でくつろいでいただけるようにと考えている。夜はゆつくり横になっていただけるようにし、時間を見て居室へ訪室し、睡眠の状況の把握し、お一人おひとりの生活習慣を崩されないように支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が次の日の薬セットの役割を持っている。薬に関する情報のファイルがあり、薬の目的、用法、容量などを目で見る機会があることで、職員が入居者の方の病状を理解をしながら、その方の変化や状態の確認を行えるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの1日の生活のリズムを考え、何事もスタッフで行わず役割が持てるよう支援している。今日の予定などを一緒に考え、楽しみが持てる関わりが出来るように努めている。毎月の行事予定を掲示し、外出や一緒に調理を行う昼食の日など、楽しみ事が多くなるように支援している。またお若い頃の生活歴をご家族から情報収集を行い、生きがいづくりに役立てるように支援している。	一人ひとりの生活リズムに合わせて活躍できる場面(畑の水やり、種まき、草取り、収穫、箒かけ)や楽しみごと(タケノコ掘り、音読、カラオケ、コンサート、体操、トランプ、散歩等)、クリスマス会、しめ縄づくり、忘年会、誕生会、新年会、毎月の手芸ボランティア(切り絵、塗り絵、押絵、ちぎり絵等)との交流を行い、気分転換等の支援をしている。今年は畑を耕し、季節の苗を植え、朝、夕の水やり、草取り、収穫をして食事づくりに使っているなど、利用者が張り合いのある日々を過ごせる場面を増やしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて、施設外への散歩を希望に添えるように努めている。また誕生月にはスタッフと事前に話し合い、希望に添える個別外出をしていただいている。買い物の日として、ホームで使うものやご自分が買いたいものなどを購入していただく機械を設けている。外出行事は、見慣れた懐かしい場所、また今しか行けないところなどを企画し、事前に問い合わせご協力いただけるようお願いをし、利用者の方々に負担なく楽しんでいただけるように努めている。	誕生月には利用者の希望に沿った個別外出を行っている。利用者全員でワールドサーカスの見物、周辺の散歩、近くの神社へ花見、寒桜を見に向島へ、買い物の日の外出、ショッピングセンターでの外食、防府天満宮初詣、テレビで情報を得て宇部空港のバラ園見学、リンゴ狩りなど、外出を楽しんでいる。外出ができないときは、お弁当を買ってオードブルをつくって楽しんでいる。家族や協力医療機関の協力を得て、職員の支援で、持病のある利用者が体調を整えて90歳の誕生祝いの一泊旅行を実現している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事では、昼食に御自分で好きなメニューを見られ、選んで食べていただいたり、生活に必要なものや新しく購入が必要なものなどは、誕生日個別外出の時に、御自分で好みにあった品物を選ばれ、購入していただけるように支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご理解をいただき、利用者様がご希望があれば、電話はかけさせていただけるようにご協力していただいている。また年末にはご家族に自筆で、また難しい方は印判やシールなどを利用し年賀状を作成していただき、返事を楽しみにされるように取り組んでいる。敬老の日のご家族に手紙をお願いし、当日ご本人にお渡しし、読んでいただくことを行っている。お手紙や絵葉書などは、居室に飾り、目に入るように工夫している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節を感じていただけるように、飾り作りや壁画を利用者同士共同制作を行い、1ヶ月ごとに室内の装いに変化を持たしている。居心地よくくつろげるために、共有スペースの家具の配置やソファの位置等、安心出来る雰囲気作りを工夫している。	利用者が居心地よくくつろぐことができ、安心して行きたいところに移動できるよう手すりの位置や共有スペースの家具の配置、ソファの位置等工夫している。壁面には毎月、利用者が手芸ボランティアと一緒に制作した季節に応じた作品が飾っており、季節を感じるができる。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごすことができるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの席は特に決めておらず、気の合う方とお好きな場所で過ごされることができ、気分転換にソファや椅子も多く設置している。また集団レクや創作活動等ではテーブルの配置を変え、1つのテーブルに集まれるようにし、交流が持てる工夫を行っている。一人になりたい時にも、ご自分で行きたいところへ移動されるように手すりの位置などを考えながら居心地のよい空間づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、ご自宅より持参された馴染みのものを配置して、お一人おひとりの生活のしやすい環境を個別で検討している。またお好きなものや作品などを目に付く場所におけるようにしている。居室にも写真やカレンダーを飾り、ご自分のお部屋に愛着が持てるように工夫している。お一人おひとりの個性を活かし過ごしやすい居室作りを心掛けている。	利用者が使い慣れた、タンス、机、椅子、衣装かけ、鏡台などを持ち込み、カレンダーや家族写真等を飾って、本人が安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様各々の、できる力を發揮していただけるように、身体状況に合わせたテーブルや椅子の配置を考え随時変更を行いながら工夫している。また、必要な福祉用具等の検討もしながら、安全に生活を送られるように支援を行っている。出来る事、出来ない事は職員一人ひとりが把握し、出来る事は見守り、できないことは声かけをしながら、一緒に行い、必要な支援を行う様に努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム自由の杜

作成日：令和 2 年 12 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時の対応や感染症対策方法など研修等で学ぶ事はあるが、職員全員が適切な応急手当また初期対応などの実践力が身についているわけではない。	全職員が応急処置や初期対応についてスキルアップ出来る。日々の業務にも、活かせるようになっていく。	職員全員が急変等適切に対応できるようになるために、定期的にテーマを決め、訓練を継続する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。